

日本における住宅インテリアの計画・設計に関する先行研究のレビュー

茂木 弥生子*

Review of Previous Research on Interior Planning and Design in Japan

Yayoiko MOTEGI*

Abstract

Although the term “interior” is widely used in the housing planning and design literature, its meaning is somewhat ambiguous because it varies depending on the situation. Although various “interior” expressions and concepts are used in the housing industry, the differences between them can be difficult to understand. A wide range of needs is seen in terms of interior design, and its importance is increasing, even during renovation. Adequate information about the housing interior is needed at the appropriate time for planning and design, as are the activities of experts. From this perspective, it is necessary to organize the expressions, concepts, and methods of thinking regarding interior design. The present paper describes the accumulated research findings on housing interior planning and design in Japan. In the 1980s, attention was focused on interior design and renovation, and in the 1990s, extensive market research was conducted. However, such research was rarely done in the 2000s, and no expansion has been seen in the field. However, recently, because of growing interest in housing renovation and the diversification of demands for interior design, there are increasingly abundant opportunities to conduct research on interior design. In the future, research from new perspectives and broader areas will be needed, as will updated results on current research on the housing market and consumer lifestyles.

1. はじめに

日本において「インテリア」という用語が定着し始めたのは1980年代になってからであるが、現在ではあらゆる場面で多用され、普及している。しかし、用語として一般化されていながらも、状況に応じてその捉え方が変化することもあるため、曖昧さをもつ用語でもある。住まいづくりの場面においても、インテリアデザイン、

インテリアコーディネート、インテリア設計、インテリア計画などの多様な表現や概念があるが、その違いは分かりにくい。

また、人々の価値観やライフスタイルが多様化し、個別のニーズに応える住まいづくりが求められる時代において、住宅のインテリアに対するニーズも多岐にわたっている。年々増加する住宅ストックを活用するためのリフォームや

*人文学部 住空間デザイン学科

リノベーションにおいても、インテリアの重要度は増している。情報社会において、住宅の計画・設計時にインテリアに関する適切な情報を適切な時期に入手することが求められ、専門家の活躍もこれまで以上に期待される。

これらの観点から、住宅におけるインテリアについて考えるうえで、改めてその表現や概念、捉え方を整理することも必要である。そこで、本報告では日本において積み重ねられてきた住宅インテリアの計画・設計に関する研究知見について整理し、研究の動向や課題について考察することを目的とする。

2. 調査方法

国立情報学研究所が提供する文献情報・学術情報検索サービス「CiNii」において、「インテリア」、「コーディネート」、「デザイン」、「内装」、「住宅」の5つのキーワードの組み合わせで論文検索を行い、インテリアデザインに関する研究論文を収集した。これらに、日本インテリア学会の論文報告集と大会梗概集で報告されている研究論文を加え、インテリアデザインに関する研究論文についての整理を行った。

インテリアデザインに関する研究については、歴史・意匠論・施設計画・人間工学・家具デザイン・教育など多岐にわたる分野があるが、今回は「住宅インテリアの計画・設計」に焦点をあて、研究の動向を整理した。

3. 住宅インテリアデザインの変遷

(1) 住宅インテリアデザインの変遷に関する先行研究

住宅インテリアデザインの変遷についての研究をみると、富山・本多は、洋風生活様式の導入過程についてインテリアデザインの視点から研究をまとめている^{1), 2)}。伝統的な和風住宅のインテリアにおいて特徴的である壁面にまわ

る化粧長押または類似の水平化粧材による水平線（これを「内法ライン」と呼んでいる）に着目し、住宅インテリアの洋風化にともなう内法ラインの消失度合いについて考察している。

「明治期におけるインテリアデザインの導入過程について」（1994）では、幕末・明治期から昭和初期までの洋風建築の室内について調査・整理することで、日本におけるインテリアデザインの導入過程の分析を試みている。文献および実物調査に基づき、建物の内部写真から主として窓や扉、腰壁などの垂直面（壁面）のデザインに着目し、内壁面の水平ラインの変化について分析している。「インテリアデザインの変化に影響する要因について」（2000）では、住宅構法の変化に着目し、文献や初期のプレハブ住宅の実物調査に基づき整理している。住宅構法の主な変化として湿式から乾式、そしてパネル化への変化が内法ラインにどのような影響を与えたかについて分析している。

筆者らは、日本におけるインテリア関連の団体および資格設立の変遷に関する一連の研究（2014～2016）において、インテリア関連の団体および資格制度の設立の変遷や資格制度の概要について分析・考察している^{3)～6)}。日本において現在活動を行っている全国規模のインテリア関連団体および資格制度について、設立年に着目して時代背景とともに設立の変遷を考察している。21世紀に入り団体や専門資格が複雑化しており、生活者にとって混乱を招きやすい状況が明らかになっている。資格制度については、受験要件や試験内容、求められる職能などについて整理し、分析している。インテリアに関する専門資格は数多く誕生しているが、その職能は重なる部分が多く、生活者にとって違いが分かりにくいことを述べている。

中村・片山は「住宅産業におけるインテリアマネジメントに関する研究」(2016)において、住宅産業におけるインテリアの変遷についてマネジメントの視点から戦後のインテリア市場の特徴を整理・分析している^{7), 8)}。新築住宅市場を、着工戸数の推移と社会動向から4つの時代区分に分類し、住宅インテリアの変遷と特徴を、空間構成と製品開発に分けて分析している。さらに、インテリアマネジメントの役割についての分析も行っている。ここでは、住宅の生産から供給までのマスハウジングに携わり、住宅市場の約6割を占める、プレハブメーカー、日本住宅公団(現:UR都市機構)等の公的住宅供給機関、マンションディベロッパー等を住宅産業として捉え、分析を行っている。

住宅産業によるインテリアマネジメントが住宅インテリアに及ぼした影響として、洋室建材群の開発とそれによるインテリア産業基盤の確立、トータルインテリアの普及とそれによる新たなインテリアの職能の確立、機能や性能、素材開発による研究開発力の確立、インテリア性能やデザイン更新による建築再生への基盤確立の4点を明らかにしている。今後の課題として、建築構成と一体化したインテリアの見直し、空間の使い方や生活の仕方といった視点からの居住者満足度向上への対応、リノベーションにおけるインテリア産業のあり方といった点が挙げられている。

(2) 住宅インテリアデザインの変遷に関する研究についての考察

住宅や住宅産業の歴史的変遷についての研究は数多くみられるが、住宅のインテリアに焦点をあてた研究は少ない。また、インテリアデザインの変遷については、書籍としてまとめられているものが多くみられる^{9)~11)}。そのため、住宅インテリアデザインの変遷についての研究

は少ないが、中村・片山による住宅産業におけるインテリアに焦点をあてた研究では、住宅の商品化の流れの中でインテリアがどのように開発・商品化されてきたかを分かりやすく整理・分析している。この研究では、プレハブメーカーや公的住宅供給機関、マンションディベロッパー等の住宅産業におけるインテリアマネジメントの変遷についての分析は詳細に行われているが、建築家や工務店などによる住宅には焦点があてられていない。

4. 住宅インテリアデザインの分析

(1) 住宅インテリアデザインの分析に関する先行研究

住宅インテリアデザインの分析についての研究をみると、小宮は一連の研究(1991~1999年)において、インテリアのマテリアルコーディネートについての分析を行っている^{12)~19)}。インテリアの仕上げ材の構成と仕上がったインテリア空間の評価に着目し、これらの関係を分析している。

インテリア空間の評価・表現に用いる形容語句をインテリア関連の書籍より約1500語抽出し、6項目に整理している。これらを「硬軟」「粗滑」「軽重」「温冷」の4種の評価軸をもとに分析を試み、形容語句を二軸相関図にまとめ、グルーピングを行っている。次に、視覚と触覚によるマテリアルの感覚特性評価を試みている。被験者による感覚評価実験を行い、「硬軟 vs 粗滑」「硬軟 vs 軽重」「硬軟 vs 温冷」「粗滑 vs 軽重」「粗滑 vs 温冷」「軽重 vs 温冷」の6種の評価相関について分析し、床・壁・天井ごとに二軸相関図をまとめ、さらに床・壁・天井材を総合した二軸相関評価図について考察している。これらを踏まえて、マテリアルコーディネート(仕上げ材構成)図を「硬軟 vs 粗滑」「軽重 vs 粗滑」「温冷 vs 粗滑」の3種にまとめている。このマ

テリアルコーディネート図に形容語句の二軸相関図を重ね合わせ、検証実験を踏まえて分析し、マテリアルコーディネートと形容語句評価対象図を完成させ、一定の関係が成り立つことを明らかにしている。この図から、形容語句をキーとしてマテリアルコーディネートを検索したり、マテリアルコーディネートと形容語句評価を認知したりすることができる。

加藤・岡本による「インテリアスタイルとリビングスタイルの類型化に関する研究」(1993)では、より多様で個性的な集合住宅を設計・供給するために、住まい手の描く空間像(インテリアスタイル)と、具体的生活像(リビングスタイル)についての調査・研究を行っている^{20), 21)}。住宅・都市整備公団(現:UR都市機構)の個性化対応住宅と呼ばれる住戸タイプの居住者に対してアンケート調査を行い、インテリアスタイルとリビングスタイルの類型化を試みている。

インテリアスタイルについては、11項目の評価軸を設定し、それらの趣向等について3段階での評価を集計し、「住みごこち重視派」「とにかく洋風派」「無印良品派」「カントリー派」「シティー、モダン派」「現代和風、数寄屋派」「グラン、ゴージャス派」「ヤング、カジュアル派」の8つのクラスターに分類している。リビングスタイルについては、23の質問項目を設定し、その嗜好性について集計し、「洋風志向・オタク族派」「自分生活・こだわり派」「仕事多忙、住み心地重視派」「フレンドリーパーティー派」「リビング団らん派」「こたつ団らん派」「暮らしゆとり派」「格式重視、夫婦円満派」の8つのクラスターに分類している。いずれも各クラスターの比率は分散されており、多様化の傾向がみられること、インテリアスタイルとリビングスタイルとの間での関連性にも多様な広がり

があることなどが明らかになっている。

李・服部は「現代の出版物における住宅のインテリアデザインの方法に関する説明のされ方とその考察」(1998)において、出版物に現れているインテリアデザインに着目し、インテリアデザインがどのように説明されているかを収集し、その特徴の一端を明らかにすることを目的として研究している^{22)~24)}。出版物の執筆者・専門家によって提起されるインテリアデザインの方法が、どのような技術要素から成り立っているか、その要素は十分に蓄積されているかなどを考察することで、ユーザーに対応するデザインのあり方、あるべき方向について考察している。

インテリアデザインを直接扱う一般書と専門書のうち調査時点で流通している出版物を対象に調査を行っている。最初に、インテリアデザインを説明する際にどのような情報が存在しているかという視点から、「プロセス」「道具、アイテム」「計量化」「基準化」の4つの技術要素を仮説として設定し、出版物の内容を分析している。さらに、次の4つの技術要素「知識化:要求条件に対応するインテリアスタイルをデザインの目的に設定するために、インテリアスタイルという知識を提示すること」、「場所化:インテリアスタイルという知識をインテリア空間の部屋別に提示すること」、「指針化:規範的な指針としてクライアントの要望にできるだけ対応したり、インテリアスタイルとスペースデザインの対応を図ったりすること」、「ライフスタイルの解説:詳細にライフスタイルを解説すること」を導き出している。

これらの技術要素に着目し、一般書と専門書の記述について分析している。一般書ではデザイン方法の「プロセス」を必ずしも明確にしていなかったこと、「知識化」の対象はデザインに限

らず広く存在しており、「計量化」や「基準化」で自動的な計画設計のプロセスにできないものは類型化などの整理を行って「知識化」されていること、要求条件の相互関係を調べ実現の程度を検討する方法が確立されていないことから一般に場所別の要求条件が知識化されていること、空間の規模や寸法について「計量化」や「基準化」が説明されるようになってきているが、空間の物理的な特性だけでなく、空間の雰囲気を表す感覚についての「計量化」や「基準化」は行われていないこと、計画設計のチェックリストのような方法は見られるが、要素の重要性を踏まえた「指針化」は今後の課題であること、「ライフスタイル解説」は専門書では必ずしも中心的な内容ではないが、インテリアデザインが生活とのかかわりのイメージを不可欠な情報としていることなどが考察されている。インテリアデザインの情報について、技術要素の立場からは不足している部分が少なからずみられると述べられている。

(2) 住宅インテリアデザインの分析に関する研究についての考察

小宮による一連の研究では、インテリアの仕上げ材についての詳細な分析が行われており、仕上げ材の組み合わせとインテリア空間のイメージを連動させることが試みられ、インテリアのマテリアルコーディネートについての知見が詳細にまとめられている。李・服部による一連の研究では、出版物におけるインテリアデザインの説明方法の詳細な分析から、インテリアデザインの情報についての整理と課題の抽出が行われている。しかし、いずれの研究からも約20年が経過しており、インテリアの仕上げ材はますます多種多様化し、インテリア関連の出版物も一般書から専門書までより一層種類が増えている。

加藤・岡本による研究では、多様化する住まい手のニーズに対応するために、空間への志向性を分析することから、個性的なインテリア空間の供給に結び付けるためのスタイルの把握を試みている。しかし、この研究からも約20年が経過しており、昨今のリフォーム・リノベーションに対する関心の高まりに応じて、インテリア空間の捉え方や志向性にも変化が生じていると考えられる。

今後は、住宅のインテリアデザインに対する新たな情報を加えた分析や、新たな視点からの分析などの研究が取り組まれることが期待される。

5. 住宅インテリアの実態

住宅インテリアの実態に関する研究には、住宅インテリア全般を対象としている研究と、対象空間を絞って研究しているものがある。

(1) 住宅インテリアの実態に関する住宅全般を対象とした先行研究

今井・中村の「住み手によるインテリアの実態とその意識に関する研究」(1994)では、注文住宅の居住者に対して、住宅計画時にインテリアエレメントをどのように決めたかや、インテリアの専門家との関わり方、インテリア計画の重視点などについてのアンケート調査を実施し、住み手によるインテリアの実態とその意識を明らかにすることを目的としている^{25) 26)}。

インテリアエレメントについて、床材や壁紙などの建物側につくエレメントは業者や専門家と相談して決めており、建物側から離れるエレメントになるにつれて住み手中心に決めているという傾向が表れている。住み手のインテリア専門家との関わりに対する満足度や感想は、概ねよい評価があるものの、一部の住み手には不満をいただいたものが存在していることが明ら

かになっている。

計画時に重視した点は全体から部分まで多様であるが、広さや空間のつながりに対する意見が多くみられる。書斎や主婦個室がつけられる世帯が多くあり、各世帯独自の空間づくりが行われていることが考察されている。各室のインテリアの決定は夫婦で決める世帯が多いが、エレメントや家族構成等により、決定者が異なることも分析されている。

筆者らは、住宅設計におけるインテリアの考え方や設計の進め方に関する一連の研究(2014～2017)において、建築家へのインタビュー調査からインテリアの捉え方やインテリア関連の専門家との協働、インテリアエレメントの提案・決定プロセスなどについての分析・考察を行っている^{27)～33)}。建築家による住宅インテリアの捉え方については「素材やモノとしてとらえる場合」「表層としてとらえる場合」「影響を及ぼすものとして捉える場合」「個人の嗜好として捉える場合」の4つに分類している。住宅インテリアに対するこだわりについては、造作や窓まわり、内装材などにおいて建築家によりこだわり方に違いがあることを考察している。インテリア関連の専門家との協働経験については、経験の有無や協働に対する考え方には建築家により違いが見られることが明らかになっている。住宅インテリアエレメントの提案・決定プロセスにおける建築家の施主との関わり方については、「啓蒙タイプ」「主導タイプ」「プロセス重視タイプ」「受容タイプ」の4つに分類し、各タイプの特徴について考察している。

(2) 住宅インテリアの実態に関する対象空間を絞った先行研究

①リビング空間を対象とした研究

松原は洋風居間の地位表示性に関する一連の

研究(1990～1995)において、洋風居間(いわゆるリビングルーム)の地位表示性に着目して、内装材・家具・敷物・照明器具などのインテリアの分析・考察を行っている^{34)～39)}。

住宅階層においては比較的上層といえる延床面積100㎡以上の注文戸建て住宅を対象に、洋風居間の図面や家具配置、敷物、窓まわり、内装材、照明などのインテリア要素などについての調査を行っている。比較対象として、延床面積80㎡以上を中心とする上層分譲マンションへの調査も行っている。延床面積と最も関連が深いインテリア要素はイス・ソファの張地と様式であることから、洋風居間のインテリアを「革張」「布張クラシック」「布張モダン他」「イス・ソファなし」の4つに類型化し、各タイプの特徴を分析している。インテリア類型と居住者属性の関係において、「革張」「布張クラシック」と「布張モダン他」「イス・ソファなし」には階層差が存在することが明らかになっている。さらに、各タイプの居住者に対して満足度や変更希望などについても分析している。次に、洋風居間のインテリア要素の選択方法やインテリア類型がインテリアに関する情報とどのように関連があるかについても考察している。インテリア情報については、テレビや雑誌で取り扱われた住宅事例や住宅展示場のモデルハウスなどを調査対象としている。インテリア情報についてもインテリア調査の結果と同様に4つに類型化でき、インテリア類型の分析において階層による差異が見られる点については、インテリア情報の影響があることが明らかになっている。

伊藤・阿部らによる「注文住宅におけるLDK空間に着目したインテリアの実態」(2016)では、注文住宅のLDK空間の快適性という視点からインテリアの実態について考察している⁴⁰⁾。この研究は、松原の居間空間についての研究に

対して、家具や平面構成だけでなく断面構成や仕上げも含めて分析していることが特徴である。

事例調査では住宅情報誌に掲載された注文住宅の実例を対象とし、平面構成、断面構成、仕上げの視点からLDK空間のインテリア傾向を明らかにし、類型化を行っている。さらに、注文住宅メーカーに対して、類型化した各タイプについてのヒアリング調査を行っている。

事例調査では、物件概要を定量的に把握するために9つのアイテムカテゴリーを設定し、整理している。次に、LDK空間のインテリアを定量的に把握するために「断面構成」と「平面構成」から13のアイテムを設定して整理し、特徴をまとめている。さらにLDK空間の壁や天井、床などの「仕上げ」を定量的に把握するために20のアイテムを設定して整理し、特徴をまとめている。これらを踏まえて実例を類型化することを試み、「LDK分離型：LDK空間が他の空間とのつながりをもたない」、「分離・独立型：LDK空間と他空間を区別している」、「融合・従属型：LDK空間が他空間とつながりを持っている」の3つのタイプを抽出している。

これらの類型化した各タイプの特徴と住宅市場の関係を明らかにするために、注文住宅メーカーに対するヒアリング調査を行い、「LDK分離型」は周囲の建築の状況や面積などの土地条件の影響を受けていると考えられること、「分離・独立型」は二世帯住宅の場合や子どもが成長し、個々の空間を尊重する家族に好まれること、「融合・従属型」は家族間のコミュニケーションを重視した子どもを持つ家族に好まれる傾向があることが導き出されている。

②トイレ空間を対象とした研究

鈴木・今井による「住宅トイレ空間におけるインテリアの実態とトイレ観に関する研究」(1998)では、住宅のトイレ空間の使用実態と

居住者によるインテリア行動の現状、トイレ空間に対する意識についての調査を行い、トイレ空間のインテリアのあり方について考察している⁴¹⁾。

比較的新しい建築年数の注文住宅の居住者に対してアンケート調査を実施している。トイレ空間を計画する際に誰が空間構成要素を決定したか、計画時の重視点、トイレ空間の現状、環境に対する意識、装飾などによるインテリア行動を整理している。次に、トイレ空間の居住性から「居室タイプ」「機能タイプ」の2つに、トイレ空間によるコミュニケーションのあり方から「コミュニケーションタイプ」「なわばりタイプ」の2つに、トイレ空間のデコレーションに対する考え方から「シンプルタイプ」「デコレーションタイプ」の2つに居住者を分類している。さらに写真を用いてトイレ空間の嗜好性について、居住者の性別や年齢別、タイプ別に分析している。

(3) 住宅インテリアの実態に関する研究についての考察

住宅インテリアの実態について、対象空間を絞った研究をみると、リビング空間に関する研究は松原による一連の研究および伊藤・阿部らによる研究において詳細に行われており、平面構成、断面構成、仕上げ、家具などの多面的な視点からの分析が行われている。しかし、それ以外の空間については、空間構成や居住環境、使われ方などの視点による研究はあるものの、インテリアに着目した研究は鈴木・今井によるトイレ空間の研究以外にはほとんど見られない。

居住者に対する調査を実施したうえで住宅インテリアの実態についての整理・分析を行っている研究が多く、作り手側への住宅インテリアに関する調査・研究は、伊藤・阿部らによる研究において行われている住宅市場との関係を明

らかにするための注文住宅メーカーに対するヒアリング調査や、筆者らの研究による建築家へのインタビュー調査があるが、取り組みは少ない。

6. まとめ

住宅インテリアに関する研究についての整理を行ったところ、1990年代に数多くの研究が行われており、研究対象として住宅インテリアに関心が向けられていたことが分かる。これは1980年代にインテリアの専門資格である「インテリアコーディネーター」や「インテリアプランナー」の制度が創設され、住宅のインテリアに対して関心が向けられるようになったことや、リフォーム市場に目が向けられたことなどの社会情勢から、1990年代に入ると住宅インテリアが研究領域としても注目されるようになったのではないかと考えられる。しかし、その後2000年代に入ると住宅インテリアに関する研究はほとんど見られなくなり、研究領域としての広がりが見られない。最近になり、改めて住宅インテリアに関する研究が現れはじめているが、一つの理由としては、ストックの時代を迎えて、住宅のリフォームやリノベーションに対する関心の高まりから、住宅のインテリアに関する研究にも改めて取り組まれる機会が増えたことが考えられる。また、生活者の個別のニーズに対応することが求められる時代になり、住宅インテリアへの要求もより一層多様化してきていることも要因の一つと考えられる。

今後は、昨今の住宅市場や住宅産業の状況、生活者のライフスタイルなどを踏まえた、新しい視点からの住宅インテリアに関する研究や、住宅の作り手側の視点から見た住宅インテリアのあり方の研究などによる研究領域の広がり、これまでに研究が行われてきた領域の情報更新などが課題である。

参考文献

- 1) 富山典子・本多昭一：明治期におけるインテリアデザインの導入過程について：室内の壁面における考察，日本建築学会大会学術講演梗概集 F 分冊，pp.1419-1420，1994
- 2) 富山典子・本多昭一：インテリアデザインの変化に影響する要因について：住生活と構法の両面からの考察，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2分冊，pp.99-100，2000
- 3) 茂木弥生子：日本におけるインテリア関連の団体および資格についての一考察，駒沢女子大学研究紀要第21号，pp.59-72，2014
- 4) 茂木弥生子：日本におけるインテリアに関する資格制度についての一考察，駒沢女子大学研究紀要第22号，pp.41-54，2015
- 5) 茂木弥生子・松本真澄：日本におけるインテリアに関する資格設立の変遷と取得者属性，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1分冊，pp.67-68，2016
- 6) 茂木弥生子：日本におけるインテリアに関する資格の取得要件と試験内容についての一考察，駒沢女子大学研究紀要第23号，pp.83-95，2016
- 7) 中村孝之・片山勢津子：住宅産業の変遷から見たインテリア市場の分析：住宅産業におけるインテリアマネジメントに関する研究（その1），日本インテリア学会論文報告集26号，pp.25-30，2016.03
- 8) 中村孝之・片山勢津子：住宅産業におけるインテリアマネジメントの変遷と役割：住宅産業におけるインテリアマネジメントの研究（その2），日本インテリア学会論文報告集26号，pp.31-36，2016.03
- 9) 内田繁（監修）・鈴木紀慶・今村創平：日本インテリアデザイン史，オーム社，2013
- 10) 専門学校 ICS カレッジオブアーツ校友会：インテリアデザインの半世紀—戦後日本の

- インテリアデザインはいかに生まれどう発展したのか？, 六耀社, 2014
- 11) ジョン・パイル：インテリアデザインの歴史, 柏書房, 2015
 - 12) 小宮容一：インテリアのマテリアルコーディネートに関する考察 序論, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.8-9, 1991
 - 13) 小宮容一：インテリアのマテリアルコーディネートに関する考察Ⅱ, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.6-7, 1992
 - 14) 小宮容一：インテリアのマテリアルコーディネートに関する考察Ⅲ, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.4-5, 1993
 - 15) 小宮容一：インテリアのマテリアルコーディネートに関する考察Ⅳ, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.6-7, 1994
 - 16) 小宮容一：インテリアのマテリアルコーディネートに関する考察Ⅴ, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.6-7, 1995
 - 17) 小宮容一：インテリアのマテリアルコーディネートに関する考察Ⅵ, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.6-7, 1996
 - 18) 小宮容一：インテリアのマテリアルコーディネートに関する考察 終章, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.10-11, 1997
 - 19) 小宮容一：インテリアのマテリアルコーディネートに関する考察, 日本インテリア学会論文報告集 9号, pp.55-62, 1999.03
 - 20) 加藤力・岡本真理：インテリアスタイルとリビングスタイルの類型化に関する研究 その1 インテリアスタイル, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.14-15, 1993
 - 21) 岡本真理・加藤力：インテリアスタイルとリビングスタイルの類型化に関する研究 その2リビングスタイル, 日本インテリア学会大会研究発表演梗概集, pp.16-17, 1993
 - 22) 李恵淳・服部岑生：一般の人が読む本におけるインテリアデザインの方法：その1 デザインの方法の要素, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E 分冊, pp.123-124, 1994
 - 23) 李恵淳・服部岑生：目的からみた住宅のインテリアデザインの体系, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E- 2 分冊, pp.379-380, 1996
 - 24) 李恵淳・服部岑生：現代の出版物における住宅のインテリアデザインの方法に関する説明のされ方とその考察, 日本建築学会計画系論文集, No.513, pp.77-84, 1998
 - 25) 今井範子・中村久美：住み手によるインテリアの実態とその意識に関する研究：その1 インテリア専門家＜インテリアコーディネーター等＞との関わりとその評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E 分冊, pp.125-126, 1994
 - 26) 中村久美・今井範子：住み手によるインテリアの実態とその意識に関する研究：その2 住み手のインテリア計画の状況と重視点, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E 分冊, pp.127-128, 1994
 - 27) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアに関する40代建築家を対象としたインタビュー調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1分冊, pp.209～210, 2014
 - 28) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアの捉え方に関する若手建築家へのインタ

- ビュー調査, 日本インテリア学会大会研究
 発表演梗概集, pp.59 ~ 60, 2014
- 29) 茂木弥生子・松本真澄: 住宅インテリアの
 捉え方に関する30 ~ 50代建築家へのイン
 タビュー調査, 日本建築学会大会学術講演
 梗概集 F-1分冊, pp.217 ~ 218, 2015
- 30) 茂木弥生子・松本真澄: 住宅インテリアの
 捉え方に関する50代以上の建築家へのイン
 タビュー調査, 日本インテリア学会大会研
 究発表演梗概集, pp.25 ~ 26, 2015
- 31) 茂木弥生子・松本真澄: 建築家による住宅
 インテリアエレメントの提案・決定プロセ
 ス, 日本インテリア学会大会研究発表演梗
 概集, pp.21 ~ 22, 2016
- 32) 茂木弥生子・松本真澄: 住宅設計における
 建築家とインテリア関連の専門家の協働に
 ついて, 日本建築学会大会学術講演梗概集
 E- 1 分冊, pp.971 ~ 972, 2017
- 33) 茂木弥生子・松本真澄: 住宅インテリアエ
 レメントの提案・決定プロセスにおける建
 築家の施主との関わり方, 日本インテリア
 学会大会研究発表演梗概集, pp.73 ~ 74,
 2017
- 34) 松原小夜子: リビングルームの室内意匠類
 型と居住者属性との関係: 室内意匠のシン
 ボル性に関する研究 その1, 平安女学院短
 期大学紀要第21号, pp.68-74, 1990
- 35) 松原小夜子: リビングルームの室内意匠類
 型とインテリア情報との関係: 室内意匠の
 シンボル性に関する研究 その2, 平安女学
 院短期大学紀要第22号, pp.100-103, 1991
- 36) 松原小夜子: リビングルームの室内意匠類
 型と居住者属性との関係 その2, 日本建築
 学会大会学術講演梗概集 E 分冊, pp.123-
 124, 1991
- 37) 松原小夜子: リビングルームの室内意匠類
 型とインテリア情報との関係, 日本建築学
 会大会学術講演梗概集 E 分冊, pp.141-142,
 1992
- 38) 松原小夜子: 戦後の洋風居間における室内
 意匠の変遷, 日本建築学会大会学術講演梗
 概集 E 分冊, pp.121-122, 1994
- 39) 松原小夜子: 洋風居間のインテリア類型と
 居住者属性及びインテリア情報との関係:
 洋風居間の地位表示性に関する研究 その1,
 日本建築学会計画系論文集, No.469,
 pp.65-76, 1995
- 40) 伊藤孝紀・阿部美月・木暮優斗・杉岡敬幸:
 注文住宅における LDK 空間に着目したイ
 ンテリアの実態, デザイン学研究 vol.63
 (No.3), pp.37-46, 2016
- 41) 鈴木礼子・今井範子: 住宅トイレ空間にお
 けるインテリアの実態とトイレ観に関する
 研究, 日本インテリア学会論文報告集 8 号,
 pp.45-52, 1998.03
- 42) 三輪正弘: インテリアデザインとは何か,
 鹿島出版会, 1985